

10/1	木	共同募金（～2027年3月31日） 衣替え
2	金	大安
8	木	寒露 大安
10	土	第80回国民スポーツ大会 （～20日・青森県）
12	月	スポーツの日
13	火	大安
17	土	貯蓄の日
19	月	大安
23	金	霜降 十三夜
25	日	大安
31	土	ハロウィーン 大安
11/3	火	文化の日
6	金	大安
7	土	立冬
10	火	大安

10月 シティ信金行事予定

- シティ信金写真会
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 内外情勢調査会大阪シティ支部 10月例会
15日 正午から 帝国ホテル大阪にて
講師：慶應義塾大学総合政策学部 教授／
慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）
副センター長 鶴岡 路人 氏
- 地元への奉仕活動（清掃） 全店舗で実施

シティ信金協賛等行事予定

- 東海道五十七次コラボウォーク
～高麗橋・水の都・大坂の歴史とにぎわいを巡る～
17日 淀屋橋駅コンコース21番出口集合
- Do Sports Fes OSAKA 2026
17日 ヤンマースタジアム長居 ほか
- 2026年 ユニセフ・チャリティミニバザー&コンサート
24日 OCATビルB1F ボンテ広場にて
- 第49回八尾河内音頭まつり
31日 八尾市立八尾小学校 ほか



鮮やかな花穂に思いを託す

サルビア

夏から秋にかけて街角や花壇を彩るサルビアは、ブラジル原産のシソ科の植物です。ずっと伸びた茎に筒状の花が連なり、代表的な赤のほか、ピンク、紫、青、白など多彩な花色があります。日なたを好み、比較的育てやすいことから、花壇や鉢植え、公共空間の植栽にも親しまれています。

花言葉は「知恵」「尊敬」「家族愛」「良い家庭」などがあります。色

によって異なる説もありますが、互いを尊重し、家族や地域のつながりを大切にする思いを託せる花です。

関西では、万博記念公園（吹田市）や兵庫県立公園あわじ花さじき（淡路市）、馬見丘陵公園（奈良県北葛城郡）などで観賞できます。なおサルビア属には、料理やハーブに用いられるセージの仲間も含まれます。身近な花を通じて、季節の移ろいと人とのつながりを感じてみてはいかがでしょうか。

- ❖梅檀木のいわれ
双葉より芳しいといわれる名木は梅檀木です。
- ❖大阪市民と市民の
殿堂中央公会堂を結ぶゆかりの橋の名は梅檀木です。
- ❖三休 (thank you)
橋筋の起点の橋の名は梅檀木です。
- ❖金庫の生みの親、
育ての親の大阪市役所と金庫を結ぶ橋の名は梅檀木です。

Monthly essay



1300年

後

期難波宮造営開始1300年。大阪歴史博物館の催し物情報で、今年がその年に当たることを知った。大阪城の真横に立つ「歴博」に出かけた。何年ぶりだろう。

最上階10階からの景色を見て驚いた。眼下に広大な難波宮跡公園が広がり、大極殿などの基壇が復元されている。整備の完了は昨春というから初めて見る景観である。古代的なパノラマ空間にしばし没入してしまった。

難波宮が都になったのは645年。「乙巳の変」の後、飛鳥板蓋宮から遷都された。これが「前期」難波宮である。日本初の本格的な首都であり、日本初の元号「大化」が定められるなど、エポックメイキングな役割を果たした。686年に火災で焼失する。

再び造営が始まったのが726年。つまり1300年前である。後期難波宮は、首都平城

京の「副都」の位置づけだった。造営を命じた聖武天皇はこの後、恭仁京、紫香楽宮へ短期遷都を続ける。

天然痘の大流行、災害、争乱、政変などに翻弄されながら、潰されるどころか、東大寺・大仏建立など大事業を成し遂げた聖武帝。相次ぐ危機を「都」から「都」への移動で回避し、かわした面も見逃せない。「都は複数置くものとする」――五代前、天武天皇による「複都の詔」（683年）を最大限活用するかのような都操縦術。

1300年後の秋。奈良県生駒市が、総理官邸・国会・危機管理の代替施設誘致に動き出した。大阪府、北海道など道府県・政令市が指定を目指す「副首都」ではなく、副首都関連法に盛り込まれた「首都中枢機能代替地域」への立候補。「地下のシエラ」という。

聖武帝が直面した危機と現代の危機を比べてみる。パンデミック、巨大地震、国際紛争……。ほとんど同じことに驚く。いや増えている。遷都先の必須条件を思いつきで追加するなら、「どんな線状降水帯にも耐えられる都市」「暴走AIの攻撃から住民を守る都市」……。SFめくが現実の脅威である。

歴博を訪れた日、線状降水帯発生予測が出ていたせいか、入場者は少なめ。考古学体験コーナーで土器パズルに熱中する人たちがすべて外国人だったのは苦笑した。大歓迎だが、大阪の歴史をインバウンドに「独占」されるのはもったいない。

歴博10階からの眺望を作った聖武帝。疫病による人口減など危機が相次ぐ一方、天平文化が大きく花開いた時代でもあった。その精華の一つ、正倉院展が奈良国立博物館で24日から始まる。

(わ)